
 原 著

AOヲ以テセル結核豫防ノ實績(第三報)

醫學博士 有馬 賴吉
 醫學士 岩崎 洵
 醫學博士 島崎 愼
 醫學士 櫃田 卓也
 Dr. E. Klement
 醫學士 森 茂
 醫學士 岩崎 基

醫學博士 青山 敬二
 醫學博士 小山 恒男
 醫學博士 小平 林肇
 醫學士 齋藤 政信
 谷口 修一
 醫學士 田川 彌子
 楠 節子

目 次

緒 言

國內結核豫防注射ヲ施セル年別ト範圍
 軍部諸團體ニ於ケル事例
 學校生徒及ビ兒童ニ就テノ事例

一般的結核豫防注射ノ事例

一般的結核豫防注射ノ成果拾遺

AOヲ以テセル結核防止工作ノ經費ニ就テ

結 論

緒 言

余等ハ昭和7年、本誌第10卷第4號ニ於テ、結核豫防接種ノ報告ヲナシ、次デ昭和10年9—10月、醫事公論ニ於テ、ソノ第2報ヲ發表シタ。ソノ後者ニテハ、結核ノ流行猖獗ヲ極ムル村落等ニ於テ、一般的ニ豫防注射ヲ施シタル場合34ヲ舉ゲテ、概略ヲ誌シタ。其後ニ至リ、各地方及ビ各方面カラ稍々盛ンニ注目ヲ受ケ、意想外ノ發展ヲ示シ、今日ニ於テハ殆ンド停止スル所ヲ知ラザラントシテキル。茲ニソノ概況ヲ記シテ第三報トシ、識者ト同憂ノ士トニ懣フル所アラントス。

サテ、余等ハAOヲ以テセル結核ノ發病防止工作ヲ便宜ニ既ニ永ラク「結核豫防接種」ト呼ビナラハシテキルガ、此呼稱ハ彼ノ種痘ノ如ク、又ハB.C.Gノ本來ノ使用法ノ如ク、狹義ノ豫防接

種ト同一視サレル虞ガアリ、之ニ依テ、結核治療劑トシテ認許サレ、豫防劑トシテハ認許サレテキナイAOヲ以テ、豫防接種ト稱スルハ不都合デアルトスル見解ガアルソウデアアル。名ハ實ノ賓デアアルカラ、呼稱ハ何デアロウト構ハヌヤウナモノデアアルガ、此點ニ關スル余等ノ考ヘ方ヲ次ニ陳ベテ置カウ。

本來、結核馴地ニ在テハ、狹義ノ結核豫防接種トイフハ殆ンド無イ事柄デアアル。結核馴地ニ在テハ、結核感染ノ有無ニ關シテ、ソノ住民ヲ次ノ如ク分類シ得ル。

- 1、未感染者
- 2、既感染健康者
- 3、同上虛弱者(所謂「治療前期結核患者」)
- 4、臨牀上ノ結核患者

以上四類屬ノ中、最モ多キハ第二類屬デアツテ、馴地ノ住民ハ最大部分之一屬シ、概シテ健康デアアル。次ハ第三類屬デアツテ、殊ニ少青年ニ多く、成人ニモ少クナイ。虛弱兒童ト稱スルモノ等ガソレデアツテ、屢々身體ノ故障ヲ持チ、生活力ガ薄弱デアリ、所謂「治療前期ノ結核患者」デアツテ、俗ニ言フ半病人デアアル。次ニ多キハ第四類屬ノ臨牀上ノ結核患者デアツテ、我國ニ於テハ推定上1,000,000人ト2,000,000人ノ間ニ在ルデアラウ。而シテ最モ少數ナルハ第一類屬ニ舉ゲタ「結核未感染者」デアアル。何故ニ結核馴地ニ於テ、左様ニ未感核者ガ少數デアルヤニ就テハ端的ニ明瞭ナル證據ガアル。即チ、例ヘバ大阪市ノ如キハ、10年許リ前ニハ生産100ニ對シ20近クノ乳兒死亡ガアツタ、ソレガ近年漸ク減ジテ、11許ニナツテハ來タガ、ソレデモ區ニヨツテハ、今日モ猶ホ14許ノ所モアル。サテ、乳兒死亡ノ原因ハ呼吸器ノ疾患及ビ消化器障礙ニ因ルモノガ、ソノ最大部分デアリ、ソレガ結核ト深イ關係ノアルコトハ周知ノコトデアアル。

„Ein bisschen tuberkulös ist jeder von uns“ト古人ガ言ツタコト、極メテヨク一致スルノデアアル。乳兒ニシテ既ニ然リ、眞ノ結核未感染者ハ結核馴地ニ於テハ殆ド零ニ近キ少數デアラヲ知ルベキデアアル。結核豫防接種ナルモノガ、果シテ狹義ノ豫防接種デアルナラバ、斯ル場合ニハソノ存在ノ要ハナイデアラウ。

AOヲ以テスル所謂豫防接種ハ、發病豫防若クハ早期治療デアツテ、狹義ノ豫防接種デハ決シ

テナイ。

現一、余等及ビ既ニ多數ノ人々ガ經驗シテキル豫防接種ノ成績ハ專ラAOノ治效ニ因ルモノデアアル。AOヲ注射シテ、好影響ノ發現スルコトノ非常ニ速カデアアルコトハ、實ニAOノ治療ノ効價ニヨルモノデアアルコトヲ、最モ正シク、且ツ雄辯ニ語ツテキルノデアアル。ダカラ、AOヲ以テスル結核豫防工作ハ、最大多數ノ人ニ在テハ、既存ノ結核免疫ノ動搖セルモノヲ補強スル方法タルニ過ギヌ。

然ラバ、AOニハ狹義ノ豫防接種劑トシテノ資格ハ無イカ、ト言ヘベ、ソウデハナイ。AOハ狹義ノ豫防接種劑トシテモ充分ソノ資格ヲ有スルコトハ、Buschmann氏ノ經驗デ確實ニ之ガ認メラレ、動物實驗デモ明カデアアル。又々、現ニ各地デ一般ノ防止工作ヲ施シテキル所デハ、初生兒ニモ亦之ヲ施スコトガ多く、假令、ソノ初生兒中ノ幾何ガ眞ノ未感染者デアルヤハ知ルベキ術モナイガ、兎ニ角ソレニヨツテ、速カニ新患者ノ發生ガ歇ムヲ以テ觀レバ、AOニ感染豫防力アルコトモ首肯サレルノデアアル。又コレヲ同一原理ニヨツテ製造セル牛結核「ワクチン」ヲ以テ、犢ヲ生後直チニ豫防接種シタル成績カラ見ルモ、亦感染豫防ノ效力ノ確實ナルコトハ知ラレルノデアアル。

ソレ故ニ、以下報告スル所ノ結核豫防工作ノ成績ハAOノ豫防並ニ治療ノ效果デアリ、AO注射ニヨル結核免疫ノ發生並ニ增強ノ結果ニ外ナラヌ。

我國內ニ於テ結核豫防注射ヲ施シタル年別ト範圍

AOヲ豫防的ニ試用シ始メタルハ、大正13年デアアルガ、ソレ以後、今昭和12年6月マデヲ、記載ノ便宜上、3期ニ分ケテミル。第1期ハAOノ試験時代デ、昭和元年末マデ、第2期ハAOガ一般ノ販賣ヲ許サレテカラ、前報昭和10年上半年期マデ、第3期ハ即チ、ソレヨリ今昭和12年上半年期マデデアアル。此3期間ニ於テ豫防注射

ヲ施シタル團體數ト人數トヲ記セバ次ノ如クデアアル。團體ノ種別ヲ便宜上、更ニ普通團體ト軍部及ビソレノ關係團體トニ別ケル。

普通集團ノ種類ヲ更ニ小別スレバ、第2表トナル。此國內範圍ハ3府1道14縣デアアル。

尙ホコノ集團ノ使用以外ニ於テ、昭和2年以來一般ニ使用セラレタルモノヲ、消費量ニヨリ概

第 1 表 大正 13 年以降昭和 12 年 6 月ニ至ル豫防注射集團及ビ人数

期 間	集 團 及 人 數		軍 部 及 ビ 關 係 集 團		計	
	集 團 數	人 數	集 團 數	人 數	集 團 數	人 數
第一期 自大正 13 年 至昭和元年末	9	8.289	0	0	9	8.289
第二期 自昭和 2 年 至同 10 年 6 月	100	35.375	98	136.510	198	171.885
第三期 自同 10 年 7 月 至同 12 年 6 月	446	332.977	129	183.031	575	516.008
計	555	376.641	227	319.541	782	696.182

備考 1、軍部ニ在テハ集團數確カナラズ、實際ハ 1 師團若クハ 1 艦隊ヲ各集團トセリ。

2、第三期ニ於テハ現在施行中ノモノヲモ含ミ、實數ハ之ヨリ稍々多シ。

第 2 表 集團種類數及ビ其人數

集 團 種 類	集 團 數	人 數
乳 幼 兒	14	1.480
小 學 兒 童 及 教 職 員	177	71.748
男 女 中 等 校 生 徒 及 教 職 員	116	39.261
官 公 署 員 及 勞 働 者	41	11.232
銀 行 會 社 員	3	3.049
工 場 從 業 員	23	16.982
市 町 村 住 民	177	232.395
其 他	4	495
計	555	376.641

算スレバ、豫防用トシテ約 200000 人ニ應用セラレタルヲ以テ、AO 豫防接種一切ノ積算ハ既

ニ約 900000 人ニ達シタルベシ。

茲ニ注意スベキハ、コノ集團數及ビ範圍ハ今日モ猶ホ日々増數シ且ツ擴ガリツ、アルガ、之ニ就テハ余等ハ全然被動的デ、未ダ曾テ勸誘ガマシキ行動ハ探ラズ、ソレデスラ猶ホコノ如キ情況ヲ呈シ、一學校、若クハ一村等ニ依頼ニ任セテ接種材料ヲ供給スレバ、傳へ聞ク者必ズ争フテ之ガ實施ヲ望ムノデアル。ソレ故ニ若シ更ニ大規模ニ無償供給ガ許サレルナラバ、コノ範圍ハ忽チ無限ニ擴ガルデアラウガ、ソレハ余等ノ如キ個人經濟ヲ以テハ耐エ得ザル所デアル。

以下數種ノ集團ニ就テ、擧ゲ得タル成績ノ一例ヲ記スル。

軍部諸團體ニ於ケル事例

昭和 6 年以降、我國軍部及ビ其關係團體ニ對シ、依頼ニヨリ AO ヲ獻ジタル年別數量ハ次ノ如シ、但シ各地ノ陸軍病院等ニ於テ、結核性疾患治療ノタメ AO No. 1 ニテ用ヒタルモノモ稍々多數アルガ、此所デハソレハ算入セヌ。

年 次	人 員
昭和 6 年	680 人
同 7 年	10.425 人
同 8 年	24.100 人
同 9 年	42.280 人
同 10 年	80.905 人
同 11 年	89.991 人
同 12 年(上半期)	71.240 人

即チ、昭和 12 年上半期 マデノ 合計 319.541 人

デアル。但シ、實際使用サレタルハ、種々ノ事情デ、コノ請求量即チ寄贈量ヨリハ稍々少量デアラシキト、又ハ軍部關係ノ請求ニヨリ提出シタモノガ、軍以外ニモ流用サレタ如キモ、少量ハアル由デアルガ、兎ニ角、規則通り 5 回宛デアリトスレバ、延回数ハ 1.577.700 回許ニ達シタ計算トナル。斯ノ如ク多數ノ接種ヲ極メテ無造作ニ施行シ、兵業等ニモ何ラノ影響ナキヲ以テミテモ、AO ノ無害ナルコトガ先ヅ立證サレテキル。

其成績ニ就テハ、昭和 6 年度ノ極メテ小人数ニ就テ試用サレタルモノ、一端ハ既ニ報告シタ

(本誌第10卷第4號)。昭和7年度ノ成績ハ滿洲及ビ上海事變ノタメニ、終ニ報告ヲ得ナカッタ。次デ、昭和8年度ニハ派遣軍ノ分ヲ除キ、大體成績が集メラレ、昭和9年春、軍陣醫學會總會ニ於テ第9師團軍醫部々員青木九一郎軍醫中佐ニヨリ報告セラレタルモノ、竝ニ同年第7師團軍醫部ヨリ報告ヲ受ケタルモノ等、優良ナル成績モアツタ(醫事公論、昭和10年9、10月)。然シ又、他部隊ニ於テハ、ソノ成績極メテ區々ニシテ、對照トノ差異ノ認メ難キモノアリ。或ハ却ツテ、對照ヨリモ不良ナル成績モアリ、捕捉スベカラザル狀況デアル(有馬、青山等醫事公論上出、菊池齊氏軍醫團雜誌第285號昭和11年)。軍隊ニ於テ數年ニ互リ、スクモ多數ノ兵員等ニ就テ實驗ガ繰リ返サレ、而カモソノ成績ガスクモ混沌タルノ原因ニ關シテハ、軍隊ニ在テ、マントウ氏反應ヲAO接種ト同時ニ繁用スルコトガ、ソノ大ナルモノデアル如ク考ヘザルヲ得ナイモノデアル(醫海時報昭和11年11月)。此點ニ關シ、陸軍省醫務局衛生課員菊池齊氏(上出軍醫團雜誌)ハ「其關係ヲ見出シ得ズ」ト報ゼラレタガ、ソレハ同氏ガ、(1)軍隊以外ノ材料ヲ觀察セラレザルト、(2)材料ヲ取扱フ方法ガコノ關係ヲ明カスルニ適セザルニ由ルト考ヘラレル。即チ菊池氏ハコノ關係ヲ觀察スルニ、師團ヲ單位トシタガタメニ、師團ノ部隊ニヨリ、マ氏反應ヲ検査シタル頻度ノ異リ、從ツテ其成績ノ異リタルコトガ平均作用ニヨリ覆ハレテシマツタノデアル。

「ツベルクリン」反應ヲ繁用スルコトガ、結核ノ發生ヲ誘致シ、若クハAOニヨル免疫增強工作ノ結果ヲ攪亂スルト思ハル、關係材料ハ陸軍部内ニハ少ナクハナイト考ヘラレル。

軍部殊ニ陸軍ニ於テ、AO接種ノ成績ノ擧ガザル他ノ原因トシテ考フベキハ、初メ各師團軍醫部若クハ部隊ノ請求ニ應ジテ贈呈シタル材料ガ、此所彼所ニ於テ餘剰トナツテ堆積シテキルコトヲ聞クノデアル。若シモソレガ事實ニシテ、AO接種回数ニ不足ガアリ、ソレガ成績不良ノ

原因トシテ枚ヘラレネバナラヌモノトセバ、材料供給者トシテハ遺憾此上モナキ次第デアル。然シナガラ、昭和8年度以降ノ兵員ノ場合ニ在テモ、ソノ全部ガ成績不良クハ捕捉シ難イノデハナイ。「ツベルクリン」反應ヲ檢スル影響ガ薄ク、且ツ接種回数モ嚴守セラレタリト見ルベキ部隊ニ在テハ亦、可ナリ優良ナル結果ヲ示シタモノガアル。次ニ記スル第3及ビ第4表ノ例ノ如キハ其適例デアル。

第3表 第十師團昭和11年度AO接種成績(部分)

區分 部隊	人員 回	マ氏反 應検査 回数	ツベル クリン 稀釋度	結核性疾患發 生數及百分率
歩10	271	2	1:1000	4 1.5%
	(338)	2	„	(13) 3.8%
歩63	317	2	„	3 0.9%
	(822)	2	„	(26) 3.1%
野10	287	2	„	2 0.7%
	(271)	2	„	(10) 3.6%

註 各部隊下段括弧内ハ否接種者トス

第4表 第14師團昭和10及ビ11年成績

區分 年度	人員	全結核發生
昭和10年	AO 接種者	525 5(9.5%)
	否 接種者	532 19(35.6%)
昭和11年	AO 接種者	367 1(2.7%)×
	否 接種者	845 19(22.4%)

備考 ×印ハ昭和10年度接種兵ノ第2年ニ於ケル事實トス

又タ、同ジク軍部關係デハアルガ、「ツベルクリン」反應ヲ追究セザル、若クハ被術者ガ自ラ進ンデ注射ニ應ズル傾向一アル、工廠等ニ在ツテハ、コノ工作ノ成績ハ例外ナク良好デアリ、民間ノ防止工作ノ成績ト一致シテキル。

例ヘバ、名古屋工廠ニ於テハ昭和11年5月春季身體検査ノ結果、體重48斤以下ノ者(年齢不同)、有熱者(微熱37度2、3分持續)ニシテ著シキ臨牀上所見ナキ者、健康保護者、赤沈速度成績不良ナル者等750名ニ對シ各5回ノAO第2號接種ヲ施シタ。其結果、體重竝ニ血沈ニ及ボス影響及ビ自覺症ニ於テ、接種前ニ比シ良好ナルコトハ明カニ確認セラレタ。殊ニ年少従業

員ニ其效果顯著ナルコトガ立證サレタ。即チソレヲ要約スレバ、

1. 對照者ヲ求メザリシモ、AO 接種者ハ接種完了後體重(1.5 疋以上)ノ増加者 58.7%、減少者 41.3%、増減ナキ者 8.7%デアツタ。
2. 赤血球沈降速度ハ實施前ニ比シ、個人的ニ 1 時間價値ノ良況ヲ示セル者 7.3%ヲ示シ、
3. 接種後ノ自覺トシテ、食慾ノ増加セル者 10%、咳嗽ヲ訴ヘザルニ至リシ者 6%、月經ノ順調ニナリタル者 5%ガ主ナルモノデアツタ。
4. 名古屋工廠ニ於テハ同一年度ニハ結核性疾患著シク增多セルニ拘ラズ、AO 接種者中ニハ罹患者ナシ。
5. 昭和 10 年ニハ全員ニ對シマンツウ氏反應ヲ實施シタルモ、11 年度ニ於テハ之ヲ施サズ(以上ハ名古屋工廠診療所長神戸軍醫少佐ノ昭和 12 年 1 月書信、及ビ、同氏昭和 11 年 12 月軍醫團名古屋研究會發表要旨、軍醫團雜誌第 285 號 P. 337 ニ據ル)。

○海軍工廠ニ於テハ、職夫 4,000 人許ニシテ、年々 30 名内外ノ結核性疾患ノ發生アルニヨリ、昭和 11 年 3 月ヨリ約半数ノ職夫、殊ニ年々多數ノ患者ヲ發生スル机上作業員竝ニ幼年工 2124 名ニ AO ヲ以テ豫防注射ヲ加ヘタ。其結果、同年末マデノ間ニ、防止工作ヲ加ヘザル 2086 名カラハ 22 名ノ結核性疾患ヲ出シタルニ、防止工作ヲ加ヘタル側、即チ累年多數ノ患者ヲ發生スル側カラハ、僅カ 3 名ノ患者ヲ發生シタルニ過ギナカツタ。

「ツベルクリン」反應ヲ頻繁ニ檢スルコトハ、當

ニ AO 接種ノ效果ヲ攪亂シ、若クハソレヲ不良ナラシムル虞アルノ外、結核性疾患ヲ誘發スル疑濃厚ナルコトハ、今後ノ檢索上充分戒心スベキモノデアル。

又、軍隊ニ於ケル結核性疾患ノ發生及ビ兵力減耗ヲ可及的僅少ナラシムルガため、兵役ニ就ク壯丁ヲソノ入營前ニ於テ結核免疫補強工作ヲ加ヘント欲スル聲ガアリ、昭和 11 年度ニ於テ、終ニ第四師團ノ一部、堺聯隊區ノ壯丁 2,411 人ニ對シ之ヲ實行シタ。其方法ハ一區(大阪市)ノ若クハ一警察署(郡部)部内ノ甲種合格者ヲ一集團トシテ、定日一定ノ場所ニ集合セシメ、各人概ネ 5 回ノ豫注ヲ加ヘタモノデアル。ソノ當然ノ結果トシテ、健康状態ガ著シク改善サレ、入營時ノ體格檢査ニ於テ、非常ニ優良ナル成績デアツタハ勿論トシ、入營後ノ健康状態モ亦殊ニ良好デアリ、某地ニ派遣轉出シタル後ニ於テモ猶ホソノ状態ニ變化ナク、他ノ否接種兵員ニ比シテ格段ノ相違ガアルト言ハレテタル。

徴兵檢査合格者ニ對スルコノ實行ハ、實ニ名案デアル。殊ニ、入營後ハ種痘、腸「チフス」、赤痢等ノ熱反應ヲ伴フ豫防注射ヲ施スノデアツテ、ソレ等ト相前後シテ、AO ヲ用フルコトハ、AO ノ效價ヲ殺グ眞ガナキニシモアラザル學說モアリ、旁々非常ニ結構デアル。ソノ實行方法ニ就テハ猶ホ研究ヲ要スルモノガアルガ、從來ノ如キ兵力減耗、若クハ軍病院ノ結核治療費等ヲ參酌シテ、多少ノ經費ヲソレニ向ケ得ルナラバ、成果ハ其經費ヲ償フテ遙カニ餘リアルモノアルハ瞭カデアル。

學校生徒及ビ兒童ニ就テノ事例

男女中等校生徒及ビ小學兒童ニシテ、昭和 12 年 6 月マデニ AO ヲ以テ接種セラレタルモノハ、前出第 2 表ニテ見ル如ク、293 校、111,000 餘人ニ上リ、コノ外軍部關係ヨリ流出シテ、學校ニ用ヒラレタルモノアル由デアル。ソノ成績ハ既ニ報告セルモノト全然ソノ軌ヲ一ニシ、例外ナキ好成績ヲ收メタ、今、多數ノ新ラシキ材料ノ

中カラ 1, 2 ノ例ヲ舉ゲテミレバ、次ノ如キモノデアル。

熊本縣尙綱高等女學校

型ノ如キ結核馴地ノ女學校デアル。昭和 10 年 10 月、濱田校長、水上校醫ノ希望ニヨリ、生徒竝ニ職員及ビ其家族等 850 人ニ對シ AO 豫注ヲ開始シ、翌 11 年 2 月ニ略々第 5 回ノ注射ヲ終

ツタガ、同年4月、即チ豫注開始後6ヶ月ニシテ、調査シ得タル、第2學年ヨリ第5學年ノ生徒594名ニ就テ、病的狀況ノ變化概略次ノ如ク、一般ニ榮養狀態ノ改善、病氣缺席者ノ著減、其他種々ノ慶スベキ現象ヲ見タ。

第5表 熊本縣尙綱高等女學校
昭和10年10月AO豫注開始前ヨリ
翌11年4月ニ到ル狀況

病 狀	時 期	
	豫 注 前	6 ヶ 月 後
頭部淋巴腺腫脹	315(49.28%)	120(20.2%)
咽頭扁桃腺腫脹	454(72.24%)	266(44.78%)
月 經 不 順	132(22.22%)	86(14.47%)

吳市男女中等校及ビ小學校

吳市ニ於テハ、昭和9年9月木村春治郎氏ニヨリ、4小學校1,100名ノ虛弱兒童ニ就テ豫注ガ行ハレ、ソノ成績ハ既ニ昭和11年春全國聯合學校醫衛生會總會ニ於テ發表サレ、優良ノ結果ガ報告サレタルガ、同11年9月ヨリハ全市ノ學校醫衛生醫會ノ決議ニ基キ、同會々長内藤誠意氏ノ殊ニ熱心ナル斡旋ノ下ニ、全市中等學校及ビ小學校47校、學校醫36人一致ノ行動ニヨリ、虛弱生徒及ビ兒童竝ニ教職員10,478人ニ對シ一齊ニ各人約5回ノ豫注ヲ施シタ。ソノ結果ニ關シ、豫防工作開始後約6ヶ月、昭和12年2月末ヲ以テ、各校ニ於テソレゾレ調査シ、更ニ調査主任竹廣茂雄博士ニヨリ、綜合調査ノ結果、同年5月第16回全國聯合學校醫衛生醫會總會ニ於テ發表セラレタ。ソレノ詳細ハ近々記述報告サレル筈デアルガ、茲ニソノ大要ヲ記セバ、

a. 數ニ就テ 10,478名中、轉校其他ノ事情ニヨリ、注射ヲ中止シ、5回完了セザル者、或ハ「カード」ノ記載不完全ナル者、等ヲ除外シテ、記載事項ヲ具備セル者ノミヲ集メ、8641名ヲ得テ統計ノ觀察ヲナシタ。

c. 家庭ヨリノ報告ニヨル一般狀況 注射開始前ニ、先ヅ、既往症調査用紙ヲ發シ、各家庭ヨリソノ回答ヲ需メ置キ、注射完了後、調査用紙ヲ以テ報告ヲ受ケ、前後ノ狀況ヲ比較シタ。ソレヲ表記スレバ、次ノ如クデアル。

第 6 表

細 別	男女合計		百 分 比	
	注射前	注射後	注射前	注射後
風 邪	ヨ ク ヒ ク	1630 376	19.68	4.35
	タ マ ニ ヒ ク	5101 1866	61.60	21.59
	ヒ ク ガ 早 ク ナ ホ ル		2331	26.97
熱	ヒ キ マ セ ン	1549 4068	18.72	67.09
	タ ビ タ ビ テ ル	688 261	7.97	3.02
	タ マ ニ テ ル	3763 2043	43.48	23.64
咳	テ ナ イ	4180 6338	48.55	73.34
	夜 ノ セ キ ガ 止 ヲ ダ		146	1.68
	セ キ ガ ヘ ツ タ		632	8.00
嗽	夜 モ 晝 モ セ ク	1119 321	13.19	3.71
	夜 ダ ケ セ ク	762 488	8.98	5.63
	晝 ダ ケ セ ク	776 310	9.14	3.58
痰	セ キ マ セ ン	5825 6684	68.67	77.40
	イ ツ モ ダ ス	481	5.56	
	朝 ダ ケ ダ ス	1274	14.74	
血 色	ダ サ ナ イ	6885 7107	79.70	82.23
	ナ ク ナ ツ タ		279	3.22
	ヘ リ マ シ タ		786	9.09
食 慾	ヤ ハ リ テ ル		470	5.46
	ワ ル イ	1991 951	23.03	10.99
	ヨ イ	779 1617	9.01	18.69
睡 眠	普 通	5874 6082	67.96	70.32
	ワ ル イ	4820 415	55.76	4.80
	スキキライが多イ	1721	10.65	
寢 汗	スキキライが減ツタ		1170	13.54
	ヨ イ	3371 2281	39.00	26.51
	普 通	452 3054	5.24	44.50
肉 附	ネ ム リ ニ ク イ	931 700	10.77	8.10
	ヨ ク ネ ム ル	7710 7946	89.23	91.90
	タ ク サ ン テ ル	620 153	7.17	1.77
肉 附	ト キ ド キ テ ル	2254 746	26.06	8.63
	テ マ セ ン	5773 7742	66.77	89.60
	肥 エ テ キ ル	512	5.92	
肉 附	ヤ セ テ キ ル	4154	48.09	
	コ エ マ シ タ		780	9.02
	少 シ コ エ マ シ タ		3382	39.15

氣分動作	同	ジ	テ	ス		4476		51.83				
	普			通	3972		45.99					
	不	活	潑		1451	521	16.77	6.02				
	快		活		1443	1873	16.68	21.67				
	普		通		5756	6247	66.55	72.31				
通學	缺	席	ガ	チ	155	126	1.78	1.46				
	缺			席	2666	1381	30.77	16.00				
	缺	席	シ	マ	セ	ン	5841	7120	32.55	82.54		
結果ニ就テ斷	別	ニ	カ	ワ	リ	ハ	ナ	イ	2287		26.43	
	ワ	ル	カ	ツ	タ	ト	思	フ		14	0.16	
	多	少	ヨ	カ	ツ	タ	ト	思	フ	4789		55.35
	非	常	ニ	ヨ	カ	ツ	タ	ト	思	フ	1561	
計					8641							

即チ、各項ニ於テ、注射前ニ比シ著シク良好ナル結果ヲ得タガ、然シ此數字ヲ以テ直ニ的確ナル判斷トスルコトハ早計デアルト思フ。實際「カード」ヲ調べテミルト、深キ考慮ヲ拂ハズ、又ソノ何レヲ抹消スベキカヲ判斷シ得ズ、唯漠然ト回答シタ跡ガ想像デキルガ故ナリ。然シナガラ、大多數ノ見解ガ何レニアルカハ判ル。而シテ、最後ノ項目、即チ、「結果ニ就テノ家庭ノ判斷」ノ中、「多少ヨカツタト思フ」及ビ「非常ニヨカツタト思フ」ノ2者ヲ合計スレバ、6534名、即チ、73.4%トナリ、家庭ニ於テモAO注射ノ效果ヲ認メタ。

茲ニ注意スベキハ、AO注射ノ結果ガ、「悪カツタ」ト言フ14名デアル。之ハ少數ナリト雖モ、ソノ具體的事實ヲ調査シ置クコトハ、今後ノ團體ノ注射ノ際參考トナルコトデアルカラ、各學校看護婦ヲシテ、家庭ニ就テ調査セシメタルニ、事實ニテハ著シキ副作用ヲ認メタノデハナク、僅カニ注射後1兩日間發熱シタル者、又ハ咳嗽ノ増加セル傾向アリシノミデ、ソレモ5回ノ注射毎ニアツタノデハナカツタ。其中、1名ハ注

射完了後肋膜炎ニ罹ツタ者ガアツタガ、之モ果シテAO注射ノ結果デアルヤ否ヤハ不明デアル。

d. 結辭 家庭報告8641名、發育狀況6171名ニ就テ觀察スルニ、一般ニ身長、體重、胸圍ノ發育佳良ニシテ、咳嗽、喀痰、有熱、盜汗、感冒等著シク減少シ、食慾増進、血色佳良トナリ睡眠モ良ク、元氣ヲ増シタル事實ヲ認メ、AO注射ハ結核豫防、健康増進ニ多大ノ效果ヲ得タト信ズ(註、吳市47校ノコノ記述ハ概ネ、竹廣博士ノ字句ヲ借用シタ)。

以上ノ成績ニヨリ、吳市學校衛生醫會ハ、本年秋季ニ於テ、更ニ30,000餘ノ生徒及ビ兒童ニ向テ、豫防注射ヲ續行セントスル計劃ガアル。吳市ニ於ケルト同様ノ生徒及ビ兒童ヲ對象トシテ、AO注射ヲ施シタ大團體ハコノ外ニモ少クナイ。廣海軍工廠醫務部ノ幹旋ニヨル該工廠附近ノ町村ニ於ケル12,000餘人、尾道市立診療所長大口壽香氏及ビ高龜良樹博士等ノ幹旋ニヨル同市學校生徒及ビ學童9,800餘人、靜岡縣小笠郡學校衛生醫會ガ同郡全部ノ虛弱小學兒童9,500餘人ニ、ソレゾレAO注射ヲ施シタ如キガアル。

ソレ等ノ成績ニ就テハソレゾレ觀察セラレテキルガ、未ダ報告ニハ接シナイノモアリ、何レモ良好ノ經過ヲ示シ、例外的ニモ不良ナルハナイ。虛弱兒童問題カラ大學々生ノ體の素質ガ著シク低下シ、結核性疾患ニ由ル中途廢學者ノ多キコト等ガ喧傳セラルノデアルガ、斯ル方面ノ對策トシテ、コレ程簡單デ、效果的デ、效果ノ現レノ速カナル方法ハ他ニハナイコトヲ斷言シ、更ニ廣ク利用セラレンコトヲ切望ス。

一般的結核豫防注射ノ事例

學生中ノ虛弱者ヲ狙ツタリ、公私ノ諸團體ヲ希望ニ任セテ豫注ヲ施シタリ、若クハ帝國軍隊ノ全部ヲ對象トシテ結核豫防法ヲ講ジタリスルコトモ、確カニ結核豫防接種ノ一ノ方途タルニハ

違ナイ。併シ、コレデハ何時マデ經テモ部分的豫防ノ目的ヲ達シ得ルニ過ギナイ。國民ノ結核ヲ根絶スル方法トシテハ、未ダ理想ヲ遠カルコト大ナルモノガアル。之ハ是非共、一般住民ニ

接種ヲ施スコトデナケレバナラヌ。余等ハ自ラ求メズシテ、之ヲ經驗スルノ機會ヲ得タ、ソシテ今ヤ其成績ノ豫想以上ニ優良ナルガタメニ、ソノ範圍ハ稍々急速ニ擴リツ、アルコト、既ニモ記シタ。

由來我邦ハ平地ニ乏シク、交通機關ノ不備ナル時代ニ在テハ、謂フ所ノ結核處女地ハ比較的廣ク殘存シテヲツタ。50年以來、交通、産業ノ發達、竝ニ徵兵制度ノ關係カラシテ、是等ノ處女地ニ結核ノ傳播ヲ容易ナラシメ、現在ニテハ、山間ノ僻邑、環海ノ漁村等ニ於テ、所謂處女地性結核ノ慘憺タル新流行ガ起リ、民族ノ健康ヲ蝕シ、産業ヲ破壊シ、思想ヲ惡化セシメツ、アルモノ全國ニ澎湃トシテオル。斯ル地方ニ於テハ、言フマデモナク、療養所、健康相談所等ノ公的設備ハ全然缺如シ、甚ダシキハ醫師スラ無キ所アリ、加フルニ病症ハ處女地性、急性惡性デアルカラ、其狀況ハ實ニ酸鼻ヲ極メテオル。ソノ慘憺タル狀況ヲ語ル例ヲ擧ゲルナラ、大阪府泉南郡ノ某村ノ1大字ノ如キハ、10數年來結核ノ被害甚ダシク、村内ニ開業醫ハナイガ、僅カナ距離デ隣村ニ技術人格兼備ナ醫師ガアツテ、ソレヲ村醫トシテキル。然シ、結核ノ猛威ハ益々熾烈ヲ極メ、軒毎ニ2人、3人ト犠牲ガ相踵ギ、終ニ醫療費ヲ缺グニ至リ、村醫ニ對シ自然不義理ヲ重ヌルニ及ビ、村醫ヲ頼ルコトガデキナクナツテシマシタ。乃デ、大阪府ニ願出デ、毎月1、2回赤十字病院ノ巡迴診療ヲ受ケテ纔カニ醫療ノ渴ヲ癒スルノデアツタ。余等ハ昭和10年10月ニ此村ヲ視察シタガ、ソノ疲弊ノ狀況ハ言語ニ絶シ、村内ニ鶏犬ノ聲ヲ聞カズ、家は留マル者ハ殆ンド皆病人ト言フベキ状態デアツタ。大阪灣ニ面シタ明朗開闊ナル土地デアツテ、本來ハ無類ノ良田デアルベキ田畑ハ瘦セニ瘦セテ、米ノ秋獲モ傷マシキ有様ヲ呈シテヲツタ。大阪市ヲ去ル僅カ3、40分ノ距離ニシテ斯ル狀況ノ村落ガ打チ續イテキルトハ誰人モ想像シ得ナイデアラウ。

福井縣坂井郡竹田村ニ在テハ戸數239、人口

1200強ニシテ、年平均7.6人(人口萬對64弱)ノ結核死者ヲ出シ、昭和8年ニ於テハ12名、人口萬對100トイフ高率ヲ示シタ。北陸地方一帶ノ情況ヲ代表スル數字デアラウ。

上述「接種ノ範圍」ノ條ニ於テ述ブル如ク、今日ニ於テハコノ一般ノ豫注ノ團體ガ最多數ヲ占ムルニ至ツテタルガ、ソレハ極メテ自然ノ要求デアアル。殊ニ昭和11年ニ至リ此種ノ豫注ガ勃然トシテ大伸展ヲ示シタガ、ソレノ最モ大ナルモノハ鳥取縣結核豫防會ノ活動ニヨルモノデアアル。鳥取縣下ノ結核流行ノ状態ハ、從來ノ統計ニヨレバ、死率人口萬對23内外デアリ、全國ノ平均ヨリ稍々高率デアルトセラレテキル。然シ、コノ統計ハ事實ト距ルコト遠キモノデアツテ、財團法人鳥取縣結核豫防會ノ過去4ケ年間ニ亙ル精密ナル調査ニヨレバ、結核死亡ハ更ニ非常ナ高率ヲ示シ、個々ノ村落ニ在テハ、人口萬對結核死率70ヲ越ユルモノ決シテ稀デナイトイフ事實ニ直面シタ。ソレ等個々ノ村落ニ於ケル醫療困難ノ情況、財的疲弊ノ有様ハ上記ノ大阪府ノ某々村等ト比シテ、更ニ深ク慘憺タルモノガアル。一般ノ豫防接種ガ昭和11年ニ於テ俄然トシテ大伸展ヲ示シタ譯ハ、一ツハ全國ノ傾向デモアルガ、ソノ主タルモノハ實ニ鳥取縣下ニ於ケルモノデアアル。同縣結核豫防會ハ熊野理事長ノ最モ熱心ナル指導ト斡旋トニヨリ、同會會員タル全縣下ノ醫師280餘人殆ンド全員一致ノ協賛ニヨリ、昭和11年1月、折柄ノ大雪ヲ侵シテ、岩美郡福部村民2170名ニ對シ、村醫濱木氏ノ獻身ノ盡力ニヨリ豫注開始セラレタルヲ起點トシ、今12年6月末迄ノ注射數ハ208集團、20萬人ニ達シ、本年降雪ノ頃マデニハ悠ニ豫定ノ30萬人ヲ越ユル情況デアアル。

余等ノ結核豫防工作ガ各地ニ於テ歡迎サル、情況此ノ如ク、之ヲ制止スルコトハ到底出來ナイ状態デアアル。或ル區域ノ住民全部ニ亙リ、強制的デナク、任意各人5回ニ亙ル豫防注射トイフガ如キ仕事ヲスルニ方リ、ソレガ萬一ニモ多少ノ有害ナル副作用ヲ伴フカ、若クハソノ結果ニ

疑ハシイ點デモアリトセバ、如何ニ結核ノ慘害ニ惱ム人々ト雖、又、如何ニ豫防協會等デ勧誘是レ努メテモ、敏感ナル大衆、殊ニ日夜生業ニ忙ハシキ人々が、スクモコノ仕事ニ隨喜シ、蝟集スル筈ガナカラウデハナイカ。

以下、前報告(醫事公論昭和10年)ニ出デタルモノ、2,3例ノ概略ヲ記シ、且ツ其後ノ情況ヲ補足シ、新タニコノ撲滅工作ニ略々成功シタ村落ノ實狀ヲ概記シテ、ソノ一斑ヲ窺フノ料トスル。思フニ、既ニ斯ノ如ク多數ノ人々ニ之ヲ施シタ今日ニ於テ、ソノ中ノ數集團ノ成績ハ既ニ稍々詳細ニ記述報告シタノデアアルカラ、ソレ等ノ集團ノ前報告以後ノ狀況ヲ擧ゲ、且ツ其後新タニ著手シタル集團ノ成績2,3ヲ擧ゲ、ソレガ例外ナク前報告ニ合致スルヲ示セバ、他ハ類推シテ知ルヲ得ルデアラウ。

愛媛縣越智郡弓削村上弓削

瀬戸内海ニ浮ブ風光明媚ノ一小島上ニ在ル農漁村デ、人口約1,400、昭和6年ヲ去ル10年間、肺結核死亡者平均5名(人口萬對35.7、昭和4年ニハ實ニ8名(萬對57)ヲ出シ、ソレニ應ジテ、常ニ20内外ノ結核患者ヲ擁シテヲツタ。殊ニ其中ノ大字久司浦(クジラ)ノ如キハ、結核禍ニ由ル醫療費ノ負債ト生産力減耗トノタメニ、破産逃亡相腫グノ慘狀ヲ呈シタ。

昭和6年11月、村居住ノ醫師ニシテ名望家、田頭一氏ノ熱心ナル盡力ノ下ニ、翌7年4月迄ノ間ニ、初生兒カラ68歳マデノ希望者800名ニ對シ豫注ヲ施シタ。

當時村内ニ5名ノ稍々重症患者ト、7名ノ輕症患者トアリ、腋窩腺ノ腫脹ヲ有シ、即チ深部ニ結核性病竈ヲ有スル疑アル者ハ概算シテ200人ヲ下ラナカツタ。臨牀的症狀ヲ有スル患者12名一ハAOヲ治療的ニ使用シタ。

殘ル約600名ハ此際期セズシテ對照ノ地位ニ置カレタ、此數ハ出稼人ト歸還ノ絶エザル關係上可ナリ不定デアアル。

豫防注射ハ田頭氏ノ犠牲的精神ニヨリ、スベテ勞動時間外ニ於テ行ハレ、注射ニヨル不快ノ副

作用モ全然起ラヌカラ、住民ノ稼業ニハ何等ノ惡影響ハナカツタ。注射ノ回ヲ逐フテ被接種者ノ健康狀態ハ著シク改善セラレタカラ、其都度希望者ガ増加シテ、終ニ800名ニ達シタモノデアツタ。

斯ル際ニ在テ、假令、家族内ニ結核患者ヲ擁スル場合トテモ、此豫防注射以外ノ何等ノ施設ヲ有セズ、注意ヲ拂ヒ能ハザリケルコトハ特筆スルマデモナイコトデアアル。結核死者ヲ出セル家族ト雖モ、之ヲ恐怖スルノ以外ニハ、殆ンド何等ノ施スベキヲ知ラズ、亦其能力ヲ有タナイノデアアル。

結果

昭和7,8兩年間ニ全村内カラ7人ノ結核死者ヲ出シタ。ソレヲ分類スレバ、

接種前カラノ患者	2名
否接種者カラ發生セル者	4名
唯1回AO豫注ヲ受ケタル者	1名

デアツタ。

又、昭和8年12月末現存患者7人アリ、ソレヲ分類スレバ、

AO接種前カラノ患者	3
否接種者カラ發生セル者	4

デアツタ。此數字カラシテ、マタ接種開始前ニ存在シタル7人ノ輕症患者ハ全部治癒シタルモノナルコトヲ直チニ首肯スルコトガデキル。

此昭和7,8兩年間ノ統計ニ出デタル結核死者7名及ビ現存患者7名計14名ノ中、豫注ニ關係アルハ、豫注唯1回ヲ受ケタル死者1名ノミデ、他ノ13名ハ否接種者デアアル。

乃デ、假リニ此村落ノ全住民ヲ豫防接種ニ關係シタル800名ノミトスレバ、2ケ年内ニシテ、舊患3名ヲ殘スノミニシテ、此村落ノ結核ハ絶滅シタト言ヘル譯デアアル。

次デ昭和9年中ニハ殘部ノ住民ノ希望者ト第1期豫注者ノ中ノ希望者トニ對シ全體的豫注ヲ行ツタガ、同年12月ニ至リ次ノ如キ結果ニ達シタ。即チ

昭和8年末ニ在ツタ7名ノ患者中、1名死亡、

2名ハ尙重症、4名ハ輕快シテ輕キ稼業ニ堪フ。昭和9年中他郷ヨリ歸村セル結核患者3名アツテ、其中1名ハ既ニ快癒シ、1名ハ漸次輕快シツ、アリ、1名ハ尙ホ重症デアツタ。

詰り、昭和9年末ニハ村内ニ臨牀結核患者ガ3名アツタガ、皆AO豫注ニハ無關係ノ人々デ、AO豫注者カラハ新患者ハ此年モ1人モ出ナイ。昭和10年中、少數ノ未接種希望者ニAO豫注ヲ施シタガ、10年上半年中ニ前年ノ帶病歸還者ガ1名死亡シタ。其外ニハ昭和8、9、10年ヲ通ジテ、AO豫注者カラハ1人ノ結核患者モ出ナイ。

昭和11年中ニAO豫注前カラノ患者ガ1名俄カニ惡化死亡シ、AO豫注ニ關係ナキ重症帶病歸還者ガ3名死亡シタ。其外ニ昭和10年後半期ニ唯ダ2回ノミAO豫注ヲ受ケタ虛弱者ガ發病シタガ、既ニ輕快シ全治ノ見上デアル外、更ニ4名ノ新患ヲ發シタガ、皆ナAO豫注ヲ受ケザル人々デアル。

結局、昭和7年以後11年ニ亙ル5ケ年間ニ、本來虛弱デ、唯2回ノミAO豫注ヲ受ケタ者唯1名ノミガ、翌年ニ至ツテ發病シタ外ハ、AO豫注者カラハ結核性疾患ヲ發生セズ、1人ノ結核死者モナイ。

瀬戸内海ニ在ル島々ノ住民ノ生活狀態ハ大體ニ於テ上述ノ弓削島ト同様デアリ、大小ノ島々ニテノ結核流行ノ狀況ハ皆ナ略々相等シク、中ニハ猶ホ酷シキモノアルコトハ既ニ日刊新聞紙ナドニモ報導セラレタ程デアル。ソノ現狀ニ至ツタ譯ハ、直チソレヲ救フノ方法ガ全然缺如シテキルコトヲ最モ雄辯ニ語ツテオルノデアル。而シテ今日ニ於テハ、吾々ノ唱フル方法ヲ用フレバ、極メテ簡明直裁ニ之ヲ清掃シ盡スコトガデキルト解ツタノデアル。

京都府葛野郡小野鄉村杉坂

昭和9年6月現在戸數31、戸籍面人口121名デアルガ、年々1—3名ノ肺結核弱者ヲ出シ、酷シキハ、10年以内ニシテ、8人ノ一家族ガ6人結核ニ斃レタルガ如キアリ、幼乳兒ノ死率極メ

テ高く、滿4歳ニ達スルハ稀ナル狀況デ、31戸ヨリノ就學兒童僅カニ9人デアル。住民ノ榮養ハ極端ニ粗惡トナリ、昭和5—9年ニシテ、徵兵受験者9名中、甲種合格ハ唯ダ1名ノミデアツタ。既ニ長ク村醫ヲ缺ギ、交通不便デ、苟モ事疾病ニ關スル限り殆ンド原始的狀態ヲ脱シテキナイ。

昭和9年6月、就尊結核患者2、就業不能ナル者5、檢診ノ結果更ニ2名ノ輕症患者ヲ發見シ、所謂健康者中、深部ニ結核性病竈ヲ有スル疑アル者35人ニ達スル危險ナル情況デアツタ。

昭和9年6月末、初生兒ヨリ60歳ニ至ル全住民113名ニ注射ヲ開始シ、同年10月迄ニ全5回ノ注射ヲ完了シタ者97名ヲ算シタ。其内臨牀上ノ患者ニハ毎2週治療ノ注射ヲ加ヘ、必要ニ應ジ他ノ藥劑療法ヲ加ヘタ者モアツタ。

昭和10年1月、即チ此一般ノ豫注並ニ治療ヲ開始シテカラ滿7ケ月ノ間ニ、稍々重症ニシテAO治療3回ヲ經タル者1人、京都市ニ出デテ出産シ、産後腹膜炎ヲ起シ、同年12月死亡セル者アリタル外、終ニ1人ノ患者ヲモ殘サズ、一般ニ著シキ體重増加、榮養改善ヲ示シ、既ニ最モ陰鬱ナル冬季ヲモ過ギ、麻疹、流感等ノ流行ヲモ經テ、昭和10年6月ニ至ル滿1ケ年中、未ダ1人ノ新患者モ發生セズ、極メテ平穩無事デアル。

即チ此小部落ニ在テハ、僅カニ4ケ月間ノ努力ニヨリ、著手後滿7ケ月ニシテ、結核ハ略々終熄シタト見エタ。

其後、昭和11年及ビ12年ニ各1名ノ肺結核死者ガアツタ。イヅレモ、豫注開始前既ニ重症患者デアツタガ、一時輕快シ、後不攝生ノタメニ再ビ惡化シタモノデアル。結局昭和9年6月以降滿3ケ年間ニ3名ノ結核死者ヲ出シタガ、ソレハ皆AO豫注前カラノ患者デアツタ。昭和12年6月現在結核患者ガ1人アル。ソレハ、AO豫注當時輕症患者デアツテ、AOニヨリ一時殆ンド輕快シタガ、昭和12年春妻帶シ、次デ腎臟炎ニ罹リ、更ニ結核ガ惡化シタモノデアル。

其外ハ當時輕症ナリシ者ハ輕快シ、虛弱小兒學童等皆頗ル健全ニ發育シ、滿3年間1人ノ新患者モ出テズ、老衰死以外ハ内科の疾患ニ因ル死亡者ハ1人モナイ。稍々佳良ニ過ギタ成績デア
ル。

此小部落ニ於ケル迅速ナル結核撲滅ノ成績ト、第1例ニ於ケル、約3ケ年ヲ要シタルトノ相異ノ由來ハ、此ニ在テハ全住民ヲ一齊ニ豫注ヲ施シタルト、彼ニ在テハ初メ部分的ニ施シ、後約20ケ月ヲ經テ殘部ノ住民ノ希望者ノミニ施シタルノ相異ニ基クモノト見ルベキデア
ル。

和歌山縣日高郡川上村

此山村ノ結核豫防工作及ビソノ結果ニ就テハ、其實施者タル醫學士西川澁氏ニヨリ、既ニ昭和11年8月醫海時報ニ詳細發表報告サレタカラ、茲ニハ重複ヲ避ケテ記述ヲ省略スル。西川氏ノ報告セル事實以後ニ在テモ、村内住民ノ健康状態ハ極メテ良好デ、産業状態モ頓ニ勃興シ、時時帶病歸還者ハアルガ、豫注ヲ施シタル者カラハ結核患者ハ發生セヌ由デア
ル。勿論西川氏ハ其後モ村内ノ保健状態ヲ嚴重ニ監視シ、少數ノ住民ニハ豫注ヲ續行シテタル。

山口縣熊毛郡阿月村

山陽舊線柳井驛ノ南方5軒ノ海岸ニ在リ、昭和10年1月現在10區568戸、人口2349デア
ルガソノ結核浸淫ノ狀況ハ最近10年間年々劇甚トナリ、昭和8年ニ於テハ總死者54、結核死者15(萬對63)、昭和9年ニハ總死亡53、結核死者16(萬對68)ノ高率ヲ示シタ。ソノ外乳幼児死亡率モ甚ダ高く、之モ結核ト深キ關係ヲ示シテキ
ル。村内開業醫師前長助一氏アリ、人格高潔、村民崇敬ノ的デア
リ、殊ニ村民ノ幸福ノタメニハ最モ熱心ニシテ勞力ヲ吝マズ、終ニ昭和10年5月ヨリ、殆ンド獨力ヲ以テ、同村氏2116名竝ニ附近村民數百人ヲ豫注シ。更ニ昭和12年春季ニ第二次豫注約1,000名ヲ終リ、豫注開始以來滿2ケ年ノ觀察ヲ經タ。ソノ結果ヲ概記スレバ、村民一般ノ健康大イニ増進シ、結核性新患ノ發生ナク、感冒モ殆ンドソノ跡ヲ絶チ、小學兒童ノ

病氣缺席モ非常ニ減少シ、壯丁ノ體格モ著シク向上シ、合格率ヲ増シタ。即チ、同村ノ結核豫防工作ハ滿2ケ年ニシテ、略々ソノ目的ヲ達シタ。詳細ハ不日前長氏ニヨリ記述報告セラル、筈デア
ル。

前長氏ガコノ結核豫防工作ニ對スル熱心ノ進ル所ハ、山ヲ越エ、海ヲ渡リテ附近ノ村々ニ達シ、獨力ヲ以テ、續々豫注ノ範圍ヲ擴大シツ、アリ、現ニ實施中ノ人數ハ數千名ニ達シテキ
ル。

大阪府泉南郡樽井村

大阪灣ニ面スル白砂青松明朗爽潤ノ地デア
ル。但シ、獨特ノ纖維工業ガ盛ンデ、村民ノ過半ハ工場經營者及ビ其従業員デア
リ、健康状態不良デ、結核性疾患モ多イ。昭和6—10年ノ5ケ年間ノ全結核死亡ハ人口萬對40—73デ、平均56.2ヲ示シ、乳兒死亡ハ生産100中11.6—26.2、平均18弱ノ高率デア
ル。村長深見氏、醫學士伊阪氏、校長奥野氏等稀ナル練達熱心ノ士ヲ網羅シ、學校衛生ニ、母性教育、託兒所事業、青年男女ノ教化、育兒指導等殆ンドアラユル社會奉仕ノ事業ヲ施シ、大阪府下ニ於ケルハ勿論全國ニ於テモ有數ナル優良模範村デア
リ、屢々表彰セラレタル所デア
ル。然シナガラ、前記ノ事情ニヨリ年々ノ結核死亡率ハ甚ダ高く、且ツ多數ノ結核性患者ヲ擁シ、學童ノ過半ハ所謂微熱兒童デア
リ、殊ニ憂フベキ状態ヲ示シタ。

昭和10年10月土著ノ住民2485人ニ就テ健康診査ヲ行ヒタルニ、結核性疾患ノ既往症アル者94人、要治療患者19名、虛弱者即チ所謂治療前期患者477人デア
ツテ、結核以外ノ疾患ハ僅カ7人デア
ツタ。乃デ其總人員、初生兒ヨリ83歳ノ老人ニ至ルマデ、各人大凡5回宛ノAO豫注ヲ行ツタ。

其結果、昭和11年早春ノ猛烈ナル流行性感冒モ殆ンド同村ヲ襲ハズト言フベキ状態ヲ示シ、一般ニ健康状態向上シ、微熱學童ハ劇減シ、豫注開始後1½年間ニ結核死數、乳兒死亡等著減ヲ示シ、結核新患者ノ發生ハ殆ンド完全ニ防遏シタ。即チ、AO豫注ノ成果ハ上出ノ諸例ト全然

一致シ、寧ろ更ニ優良デア。其成果ノ特ニ優良ナルハ同村ノAO接種以外ノ諸施設ノ效果ニヨルモノト見エ。其詳細ハ接種實施者タル伊阪春氏ニヨリ別ニ報告サル、筈デア。

鳥取縣下及ビ其他ノ地方ノ事情

50萬弱ノ人口ヲ擁スル鳥取縣民中、約30萬人ヲ第一期豫注ノ目標シテコノ工作ヲ開始シ、主トシテ昭和11年5月以後ノ著手デア。12

年6月ニシテソノ3分ノ2許ヲ接種完了シタ。ソノ中ノ一部分ニテハ、第一年ノ注射ヲ終リテ、更ニ第二年ノ注射ヲ開始セルモノモアル。其成績ニ至ツテハ上ニ例記セルモノト全然同一歩調ヲ辿リ、結局同等ノ結果ニ達スルコトハ一點ノ疑モナイ。

其他各府縣ニ於ケルモノモ、皆其軌ヲ一ニシテキル。

一般的結核豫防接種ノ成果拾遺

結核豫防接種、若クハ特殊免疫法ニヨル結核發病防止トイフ如キ手段ニヨリ、結核新患者ノ發生ガ歇ミ、進ンデハ感染源ガ閉塞シ若クハ消失スル場合ニハ、從來見慣レタル結核患者及ビソレノ存在ニ關スル事情ガ變化シテ來ル以外、思ヒ設ケヌ種々ノ副産物ノアルコトガ、經驗セラル。次ニ誌ス所ハ、ソレ等種々ノ副産物ノ中、實驗者カラ特ニ喧唱セラル、所ノモノデア。

流行性感冒防止 風邪若クハ感冒癖ハ虚弱者ニ於ケル殆ンド共通ノ特性デア。AO豫注ヲ加ヘタル場合ニハ、身體事情ノ改善サル、ト共ニ、大多數ノ場合風邪癖ガ解消スルノデア。コト、學生、學童等ノ場合ニ於テ、到ル所極メテ明白ニ經驗スルノデア。茲ニ一奇トスベキハ、例之バ、一村ニ於テソノ學童及ビ學校關係者ノミニ對シ、AO豫注ヲ施シタル場合ハ、ソノ學校ニ在テノミ、又ハ一村ノ全住民ニ對シテ、一般ノ豫防注射ヲ施シタル場合ニハ、ソノ全村民中ニ「流行性感冒」ノ侵襲ナキニ至ルコトデア。流行性感冒ノ原因ハ未ダ明カナラズトハ雖、ソレト結核ト原因ノ若クハ免疫ノ關係ナルベキコトハ言ハズモガナデア。而カモ、學校若クハ町村等ニAO豫注ヲ施シタル場合ニハ、流感ノ侵襲ヲ免ル、コトハ例外ナキ事實デア。余等ハ未ダソノ理由ヲ明カニ知ラ得ナイノデア。AO豫注ニヨリ、一般狀態ガ頓ニ改善サレ、他ノ内科的疾患モ著減スルノ事實ヨリ推シテ、流感ニ對スル抵抗力モ亦同時ニ增強セラ

ル、モノナラントスルヲ以テ、當分満足セナケレバナラヌ。拔カヌ太刀ノ功名トモ稱スベキカ。

甲状腺腫及ビバセドウ氏病事情 青年、殊ニ青年女子ニ於テ稍々著明ナル甲状腺腫ヲ有スル者ハ少クナイノミナラズ、羸瘦シ、心悸亢進ヲ訴ヘ、即チバセドウ氏病ノ不完全症タル者モ亦稀デナイ。余等ハ男女中等學校等ニ於テ、AO豫注ヲ行フコト既ニ100,000人以上ニ達シタルコト上述ノ如クデア。其際コレラノ甲状腺腫、若クハバセドウ氏病ノ不完全症ガ、例外ナク稍々速カニ解消スルコトヲ多數經驗シタ。有馬、青山ハ既ニ定型ノナルバセドウ氏病ヲモ、AOヲ以テ能ク治癒セシメ得ベキコトヲ報告シ(昭和8年、臨牀ト治療2卷、4-5)、有馬ハ之ヲ以テ、無結核菌性結核症ノ一種デアトシタ(日新醫學24卷4、昭和10年)。次デ前長助一氏ハ定型ノバセドウ氏病ノ3例ヲAOヲ以テ完全ニ治療シ得タコトヲ報告シタ(大阪醫事新誌8卷2號昭和12年2月)。

月經異常、不順、無月經 所謂虚弱ナル女子ニハ無月經、若クハ不順ニシテ屢々之ヲ缺クコトアリ、若クハ、例月コレアルモ極メテ少量ニ留マリ、日數モ不定ナル場合ガ多イ。又ハ月經時ニ下腹部ノ疼痛其他ノ症狀ヲ訴フル者ガ少クナイ。AOノ豫注ヲ施ストキハ、コレラノ事情ガ大多數正常ニ復リ、若クハ正常ニ近ヅクコトヲ見ルノデア。其内デ、疼痛ヲ覺エルモノハ、恐ラクハ子宮附屬器ニ結核性炎症ヲ有スルモノト見做シテ可ナルモノデア。以上ノ結果

ハAOニヨリ治癒若クハ輕快スルニ由ルモノデアラウ。之ハ一般の豫注ノ場合ニモ少カラズ見聞スルガ、女學校生徒ノ場合ニハ殊ニ多數ノ報告ニ接スルノdeal。

慢性漿液性關節滑液膜炎 本症ハ余等ノ經驗セル所ニテハ、主トシテ青年期以後殊ニ中年以後ニ於テハ稍々多數ニ存在スル原因不明、治療困難ナルモノdeal。然シ、彼ノ關節ニ發赤腫痛ヲ起シ、心瓣膜障碍モ伴ヒ、血中ニ連鎖球菌ヲ證明シ得ル、Rheumatismusトハ恐ラク嚴重ニ區別サルベキモノdeal。特徴ハ多數ノ關節ヲ移動シ、大小ノ關節ニ單發シ若クハ多クハ多發スルモノdealアリ、大ナル關節ニ在ツテハ漿液ガ溜ルガ、ソノ穿刺液ニハ何等特異ノモノヲ認メシメヌ。之ハAOニヨツテ比較的容易ニ治癒スルモノdealアリ、從ツテ、結核過敏症ノ一種タルニ相違ナキモノデ、有馬ノ所謂無結核菌性結核症ノ一部deal。此種ノ慢性關節障碍ガ、AOヲ以テ一般の豫注ヲ施ス場合ニ亦可ナリ多數ニ經驗セラレ、輕快若クハ治癒スルノdeal。

鬱憂症、體質性皮膚炎、脂肪過多等等 餘リニ多クノ事柄ヲAO豫注ノ效果トシテ列擧スルハ、猥リニ奇蹟ヲ語ラントスルガ如キ嫌ハアルガ、結核馴地ノ住民ガ、日常、如何ニ深く且ツ廣ク、種々ナル形ニ於テ、結核ノ禍害ヲ蒙レルカタ示シ、結核事情ノ解消ト共ニソレ等ノ事情モ亦解消スルコトヲ見ント欲スルノdeal。AOノ臨牀の試用ニ當リ、一過性若クハ持續的ニ「精神爽快」ヲ覺ユル者多キコトハ、既ニ大正12年ニ報告セル所デアツタガ、其副産物的效果ハ今日モ猶ホ變ラズ、臨牀のニハ普通ニ見ル如キ結核性症狀ハ備ヘズシテ、周期的ニ發生スル一種ノ鬱憂症狀、例ヘバ、中年ノ女性ニシテ、毎年數回、數日ニ互ル嘔氣、食機不振、頭重、倦怠等ヲ發スル者、又ハ單ニ頭重、倦怠ノミヲ發スル者、若クハ反對ニ氣分荒壞シテ躁暴トナリ。自制シ難キニ至ル者等、種々ノ傾向アル者ガ、AO豫注後忽然トシテ解消シタリト言フ例ガ殆ンド到ル所デ經驗サレタ。更ニ稍々多數ノ

經驗ニヨレバ、斯ル鬱憂乃至躁暴ナル傾向ハ往往再發スルコトアリ、其際直チニAOヲ治療ニ準ジテ使用セバ、速キハ數時間ニシテ拭フガ如ク解消スルト言フ。

濕疹其他ノ所謂體質性、若クハ神經性皮膚疾患ノ種々ナルモノガ、AO豫注ノ副産物トシテ治癒シタ報告ガアル。之ハ既ニ稍々長ク種々ノ場合ニ余等モ經驗セル所デ、ソノ特異ナル一例ハ、昭和5年、有馬ガDeutsche Naturforsch und Aerzte-Versammlungデノ報告文中ニモ出シタモノdeal。ソレハ四肢ノ末端部ニ對蹠的ニ稍々廣ク丹毒様皮膚炎ヲ發シタモノデ、強壯法トシテAO治療ヲ加ヘタ際、悠忽トシテ消失シタモノデアツタ。近頃一般のAO豫注ニ方リテ解消シタリト傳ヘラル、モノハ、決シテ一様デナク、隨分多種deal。

結核免疫ガ増大スレバ、虛弱者モ、結核患者モ、健康度ヲ増大スルカラ、肥滿シ來ルコトハ、之ハ言フマデモナイコトdealアルガ、茲ニ一奇トスベキハ、性來ノ脂肪過多症ガ、AO豫注ノ後、沈著脂肪ノ減少スルヲ見ルコトdeal。新陳代謝機能ガ正常ニ復ルトデモ言フ可キデアラウ。**社會的事情** 一般の豫防注射ノ成績ヲシテ一層優良ナラシメルモノトシテ、極メテ愉快ナル事象ガアル。元來日常ノ生活ニ追ハレ、又ハ舊習ヲ脱シ難キ階級ニ在テハ、謂フ所ノ「衛生」生活ハ殆ンド顧ミルノ暇ナキ狀態deal。斯ル際、何等ノ法的取締リナキ結核罹患ノ唯ダ「諦ラメ」ヲ以テ之ニ對スル以外ハ策ナキニ際シ、之ニ對スル的確ナル豫防竝ニ治療ヲ加ヘ、ソノ成果顯著ナルモノアルヲ目睹スル者ハ、俄カー自己從來ノ生活法ヲ所謂衛生的ニ省察スルニ至ルハ自然ノ道理deal。即チ、余等ノ結核豫防工作ヲ一般的ニ加ヘ、忽チ良結果ヲ示スヲ見タル農山村等ノ住民ハ、茲ニ初メテ、所謂衛生ナルモノノ意義ヲ悟ルニ至ル如ク、或ハ日光ヲ遮ギル樹蔭ヲ伐リ、或ハ所謂萬年床ノ布團等ヲ日光ニ曝ラシ、室内ヲ清掃シ、等、等、ノ自覺ヲ示スノdeal。

其外、自發的ニ結核豫防注射ニ應ジタリトナス道程ハ自然一種ノ覺醒ヲ催起シ、進ンデ「協同ノ力」、若クハ「一致團結ノ效力」等ニ對スル認識ヲ養成スルコトデアル。此事ニ關シテハ、西川醫學士ノ報告(醫海時報昭和11年8月)中ニモ、略々同様ノ意見ガ書カレタ。コノ類ノ傾向ハ、舊來唯ダ一戸ノ生活ヲ中心トシ、他ヲ顧ミルコトヲ知ラザリケル僻地ノ住民ノ生活狀態ニ在テハ、ソノ利益ハ可ナリ大ナルモノト言フベキデアル。

既存患者及ビ帶病歸還者 個々ノ町村等ノ住民ニ一般の豫防工作ヲ加ヘタ場合ニハ、之ヲ開始

シタ翌月アタリカラ、殆ンド結核性新患ノ發生ハ歇ミ、コノ工作ヲ終ルト殆ンド同時ニ結核禍害ハ略々解消スル。唯ダ、此際ノ問題ハ少數ノ既存患者ト帶病歸還者ノ處置如何トイフコトデアル。コノ處置ガツケバ、個々ノ町村等ノ結核防止工作ハ極メテ短時日ニシテ完成スル。詰リ、コノ少數ノ患者ヲ隔離スル方法ヲ得タイノデアル。

私案ヲ以テスレバ、コレ等ノ患者ヲ各自自治體ノ有スル傳染病舎ニ收容加療セシムルコトガ最モ捷徑デアル。幸ニ國家ノ施設トシテ行ハレルニ至ラバ、コノ問題モ容易ニ解決スルデアラウカ。

結核防止工作ノ經費ニ就テ

上來述ブル所ニヨリ、余等ノ方法ヲ以テスレバ、結核ノ發生ヲ防止シ、種々ノ疾病現象ヲ芥除シ、健康狀態ヲ改善シ、國民ノ體力ヲ向上セシメ、終ニハ結核ヲ完全ニ剷盪シテ國民ノ能力ヲ振興シ得ルコト疑フベカラザルニ至ツタト信ズル。於茲、一國若クハ個々ノ民族ノ結核撲滅ニ要スル經費如何トイフコトヲ一應考ヘテミルベキ順序デアル。

今假リニ、接種材料ハ國費ヲ以テ製造シ且ツ配給セラル、モノトスレバ、他ハソノ實施ニ當ル者ノ人件費ト器具費ト消耗品費トガ經費ノ主ナルモノデアル。

余等ノ經驗ニヨレバ、健康ナル醫師1人、男女補助員15名許ヲ以テ組織セル1豫防接種班ハ1日1ヶ所6時間作業ニシテ5,000人以上ノ一般住民ヲ豫注シ得ル。AO現在ノ使用法ニヨレバ、各人5回ノ接種ヲ要スル規定デアルカラ、1接種班ハ計算上、1日1,000人ノ豫注ヲ完了スルコト、ナル。ソノ勞作時間ヲ毎週5 $\frac{1}{2}$ 日トシ、祭日等ヲ通算シテ、1ヶ年260日勞動トセバ、交通ニ要スル時間等ヲ加算シテモ、250,000人ノ豫注ヲ完成スルハ困難デハナイ。コノ計算ガ正シトセバ、人口1億ノ豫注ヲ1ヶ年ニシテ

完成セントスル場合ニモ、僅カー400ノ接種班ヲ要スルニ過ギヌ。我國現下ノ物價及ビ生活費ヲ以テ標準トセバ、1接種班1ヶ年ノ經費ハ、人件費約12,000圓、ソレニ必要ナル交通費及ビ宿泊費等ヲ略々同額ト見、器具及ビ消耗品費等ヲ積算シテ、合計約30,000圓デ宜シイ。勿論指導ヲ要シ、又多少ノ準備行動ヲ必要トスルガ、指導ハ千篇一律デ、大ナル費用ヲ要セズ、準備行動ハ實施ニ際シテ必要ナル協力ト共ニ市、町、村等ノ自治體ガ當然受持ツベキモノデアル。又、豫防接種班ハ必ズシモ專任者ノミヲ要セズ、各地方ニ於テ、在住ノ醫師ヲ中心トシテ隨所デ之ヲ組織シ得ルカラ、ソノ場合ハ經費モ大イニ低下スルハ言フマデモナイ。

然ルニ、コノ結核豫防工作ハ、之ヲ全國的ニ施ス場合ニハ、ソノ第1年ガ最モ高キ勞作ヲ要シ、第2年以降ハ單ニ餘燼ヲ消スニ過ギズ、從ツテコノ施設ハ極端ニ縮小シテ可ナルモノデ、經費モ亦從ツテ極端ニ減少スル。

若シソレ、各人ノ受ケル豫防注射ノ回數ヲ、例ヘバ、3回ヲ以テ完成スル如ク改良スレバ、1接種班ノ作業能率ハ3分ノ5トナリ、若クハ全經費ハ5分ノ3ニ低下スル。

結 論

我國民ノ體力ハ低下シツ、アリト言フ。ソノ原因ハ結核ノ蔓延ガ主タルモノデアリ、個人貧ガソノ副タルモノデアルト見ル。

又、個人貧ノ原因ハソノ80%マデ疾病デアルト言フ。疾病ニシテ個人貧ノ原因トナルモノハ最大部分結核デアル。ダカラ、結核ハ國民ノ體力低下ニ對シテ二重ノ原因ヲナシテキル。是レ結核ヲ驅逐スルノ國家的緊急事タル所以デア

ル。結核ヲ驅逐スル方法ノ的確ニシテ簡捷ナルモノハ從來ナカツタノデアルガ、余等ノ提唱スル方法ヲ以テ、一般的ニ之ヲ施セバ、極メテ簡單ニ結核ヲ消滅セシムルヲ得ル。極メテ多數ノ人體

ニ之ヲ試ミタル結果ガソレヲ證明シタ。ソレ故ニ、國家ノ施設トシテ全國的ニ之ヲ施スコト、一日速カナレバ、一日速カニ我が國民ハ結核ノ慘害カラ救ハレ、國民ノ體力ハ向上シ、防貧ノ基礎トナル。又、之ヲ國家ノ施設トスル場合ニハ、ソレニ要スル經費モ極メテ僅少デアル。稿ヲ終ルニ臨ミ、極メテ多數ノ人々、殊ニ陸海軍醫官、各地ノ醫師諸君、自治體及ビ學校當路者諸君ガ最モ熱心ニコノ結核防止工作ニ盡カセラレタルニ對シ滿腔ノ敬意ヲ表シ、猶ホ今後ノ盡力ヲ各マレザランコトヲ、國家ト社會ノタメニ切ニ希フモノデアル。(昭和12年7月稿)